

## 今日からできるおもてなし

地域一体となって取り組む景観まちづくり。店舗や事業所であれば接客や施設の演出などがあり、一般家庭では「日々のゴミ拾いや清掃」「不用品の整理や片づけ(例：枯れてしまった植木、壊れた自転車)」など、主に「美観の向上による景観の配慮」といったことが挙げられます。

大切なことは、訪れる方に気持ちよく旅を楽しんでいただくということ。

人は自分を大事にしてくれる場所を歓迎します。これは景観という視点に置き換えても当てはまることで、結果おもてなしにつながっていきます。



自宅敷地内であっても、不用品を片づけたり、「目に触れなくさせる」工夫をすることで、景観の印象はガラリと変わります。

箱根町環境整備部都市整備課

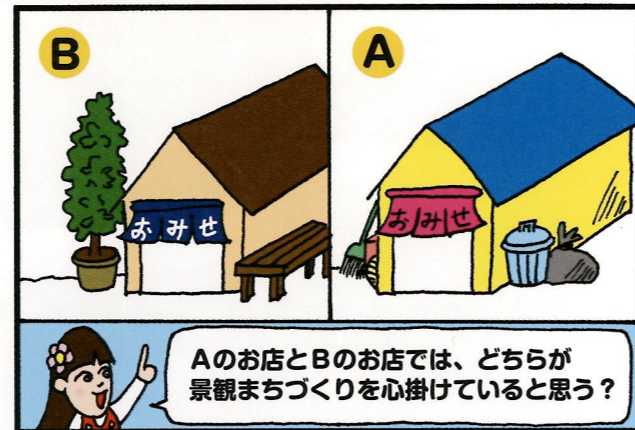
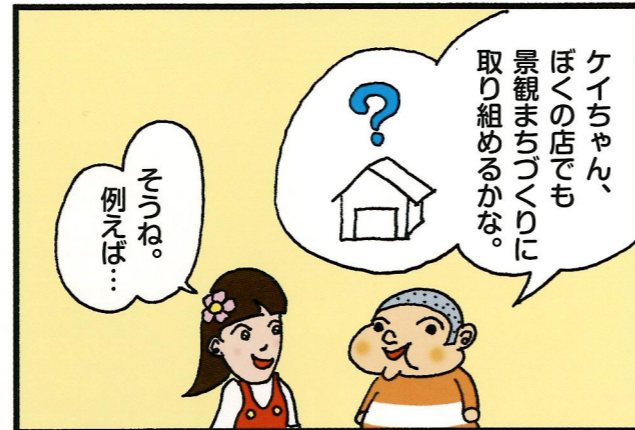
☎ 0460-85-9566 直通

FAX 0460-85-7577

🏠 神奈川県足柄下郡箱根町湯本256

e-mail web\_seibi@town.hakone.kanagawa.jp

## ケイちゃん & カン太くん できることから始めよう



カン太くんは極端な例でしたが、景観まちづくりの第一歩は「できることから」。皆さんも今一度、景観の事を考えてみましょう！

皆様、ちょっと目を閉じてみませんか？何が見えますか？旅行先の風景？恋人に別れを告げたあの橋？新しい出会いがあったあの駅？生まれ育った地域の山や田や畑や畑？どなたにも心に刻まれた情景・景色・風景が見えていると思いませんか？

手つかずの自然に何らかの理由(例えば、住宅地を造成する・川に橋をかける・鉄道を敷く・駅ができる)で人間の手が加わると、自然としての条件がなくなり、それが景観となつて私たちの目に映るのです。ですから人間の手の加え方によつて良い景観にも悪い景観にもなつてしまいます。今皆様が見ている旅行先の景色、恋人と訪れた橋、出会いの駅や生まれ育った地域の山や田や畑は、きつと

良い手の加え方をした良い景観の場所かもしれません。

環境先進観光地である箱根は、自然・歴史・文化などの観光資源に育まれた非常に恵まれた魅力ある地域です。箱根町のほとんどの方々は観光資源を活用しているといつても過言ではありません。昨年は本リーフレットにて「箱根の本気のおもてなし」をお読みいただいたかと思いますが、裏表のない気持ちでお客様をお迎えするつもりです。今回は箱根らしいおもてなしを考えてみましょう。

明治十一年、鎖国から開国した日本各地(横浜から東北地方)を単身旅行をし、山形県のある地方を日本のアルカディアと褒めたたえたイギリス人女性イザベラ・バード。彼

女がこの地方の景観はもちろんの事、驚いたのは愛想のいい庶民による礼儀正しい接待でした。当時、まだ貧しい人々が出来る限り親切に、代価を求めない事に対し、非常に感動したという事です。あるスイス人も散歩先の農家で歓待され、庭の一番美しい花を切つて送られたのでお礼をしようとしたら、受け取らなかつたそうです。この様な話は、渡辺京二氏「逝きし世の面影」に多くかかれていますが、「親切と真心」が当時のおもてなしに対する庶民の倫理だったと推測されるとも記されています。

「親切と真心」今まさにこれが箱根らしい基本のキーワードではないでしょうか。箱根人として箱根らしいおもてなし、どなたでもできます。難しい事ではありません。時代は移り変わりましたが、心は変わりません。箱根の良い景観は人々の心を豊かにします。豊かな心でおもてなししましょう。

しば きょうこ  
芝 京子

箱根町景観まちづくりアドバイザー



社団法人神奈川県建築士事務所協会副会長、NPO法人ときめき箱根副理事長などを務めており、箱根町第5次総合計画審議会会長、都市計画審議会委員などを務めた経験があります。

## 箱根らしいおもてなし

箱根町景観  
アドバイザー 芝 京子

「箱根らしいおもてなし」が広がっています。

箱根町景観まちづくり総合情報発信誌

りーふれつと

箱根町環境整備部都市整備課